

平成24年度 子どもの外遊びおよび足腰について

北九州市保育士会

調査の目的

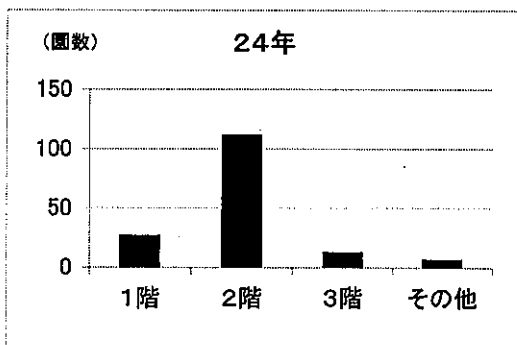
本調査は平成17年度に行った調査を継続し、子どもの育ちについての状況を調べ3歳未満児の発達研究を探る調査として、北九州市保育士会研究部に協力して「子どもの外遊びおよび足腰の発達についての調査」を行いました。

調査の要領

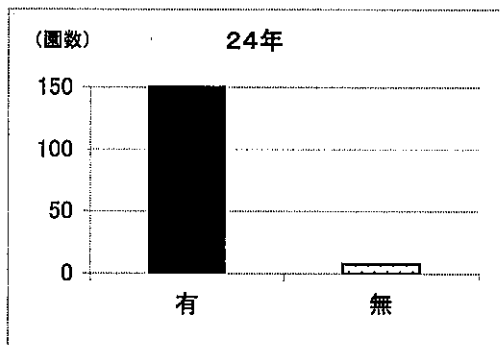
調査日 平成24年10月26日～11月9日
 記入者 未満児クラスの担任による記入
 調査方法 北九州市内全保育所(園)にアンケート依頼調査
 全未満児クラス…A4用紙各2枚
 対象 全保育所(園) 159ヶ所(回収率 100%)

子どもの外遊びおよび足腰についての調査集計結果

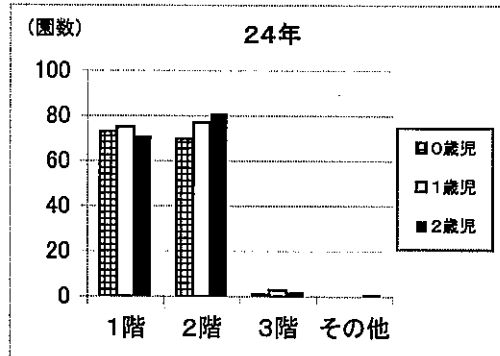
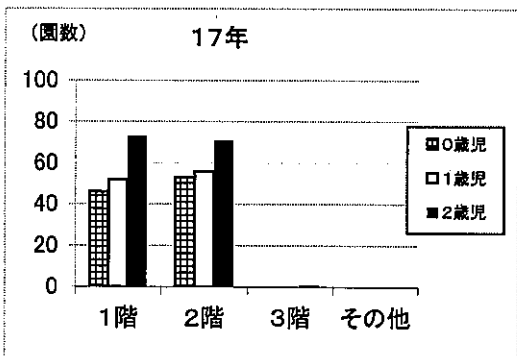
(A)園舎について



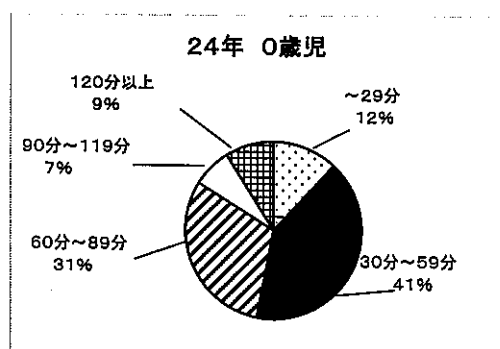
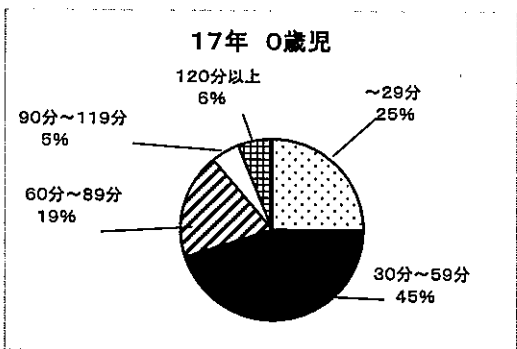
(B)近隣の公園の有無

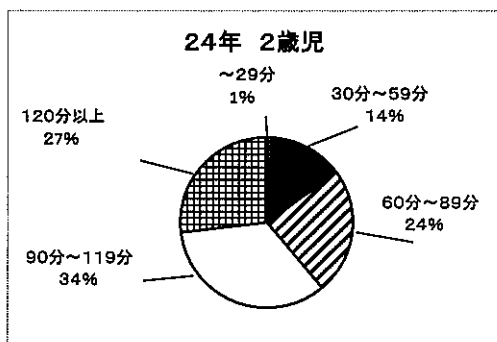
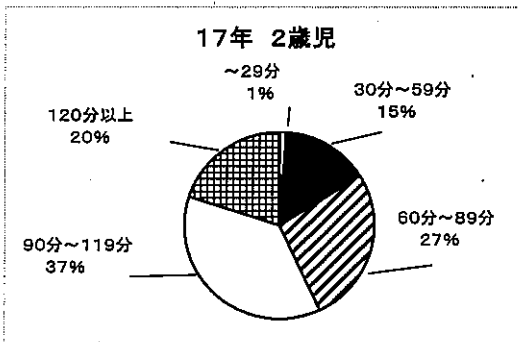
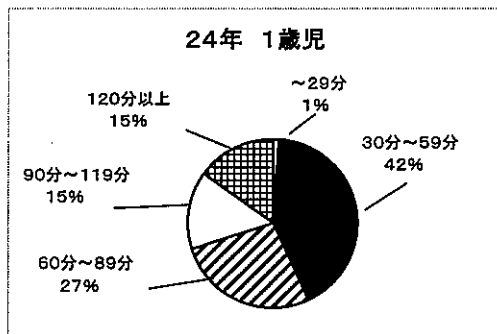
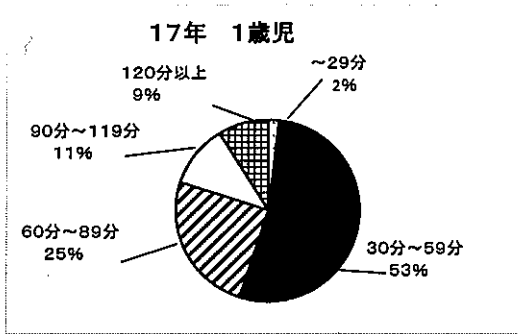


(C)クラスのある階



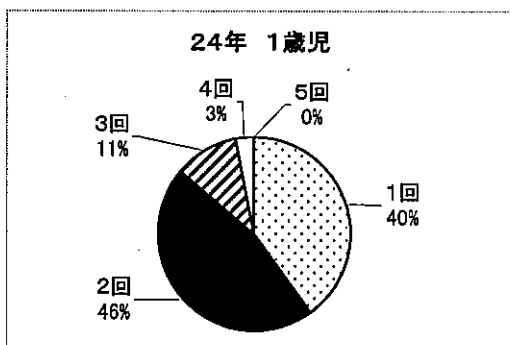
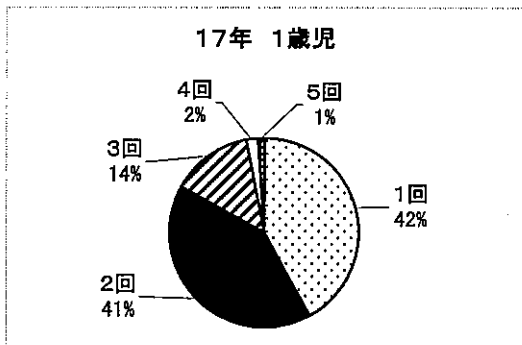
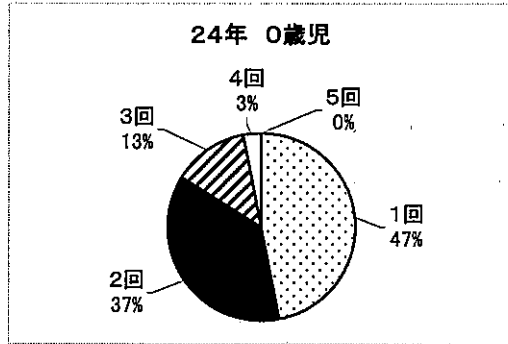
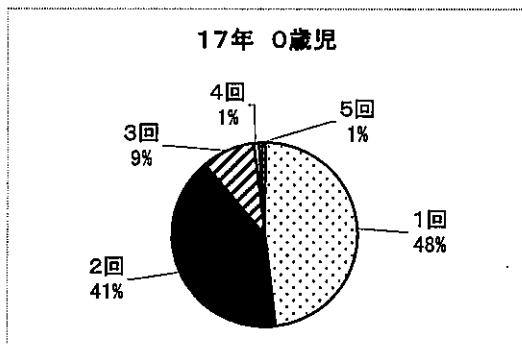
1、日頃の外遊びの時間はどれくらいですか？ (1日の総計)



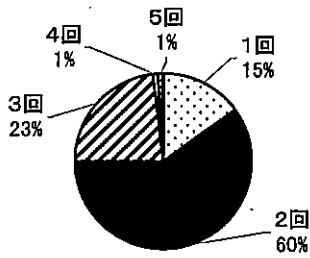


※ 外遊びの時間は0歳から2歳の全年齢で一時間以内が減り、60分から120分以上では増えている。

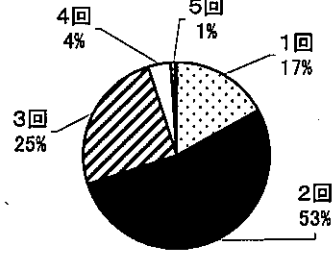
②外遊びの回数(1日の総計)



17年 2歳児



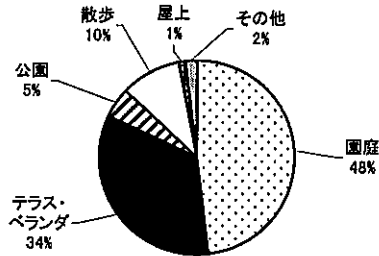
24年 2歳児



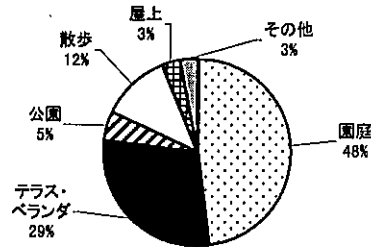
※ 外遊びの回数は、0歳から2歳までの年齢でも17年と24年とでそれほど変化は見られない。

③遊んでいる場所

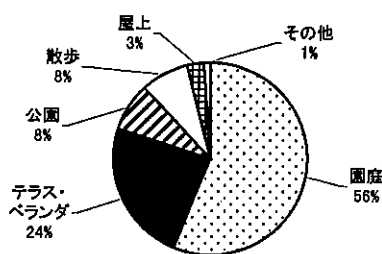
17年 0歳児



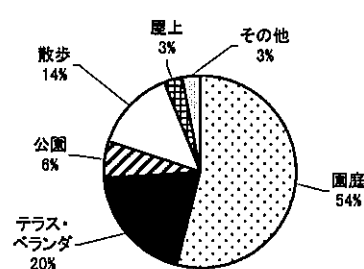
24年 0歳児



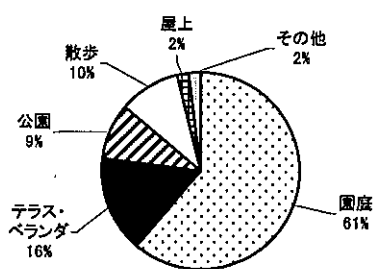
17年 1歳児



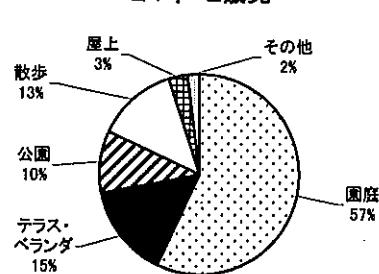
24年 1歳児



17年 2歳児



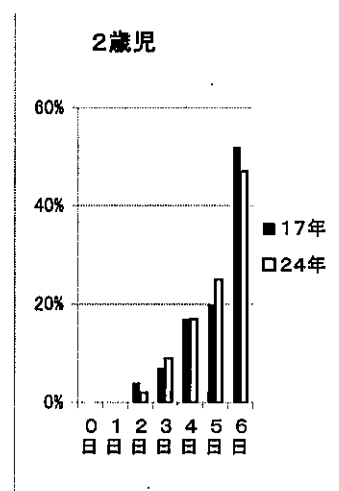
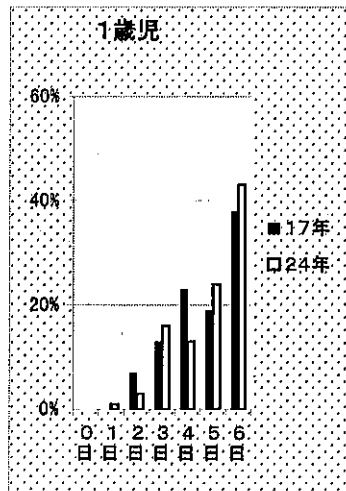
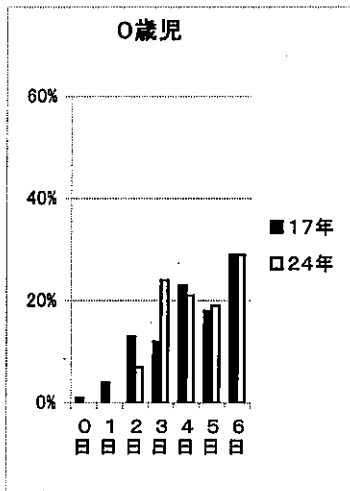
24年 2歳児



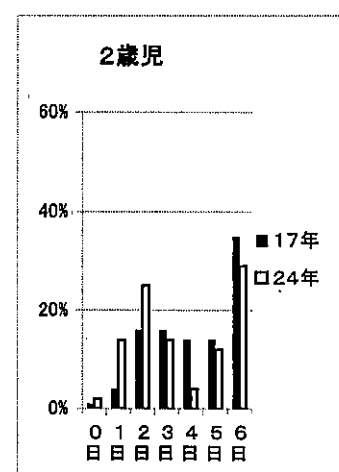
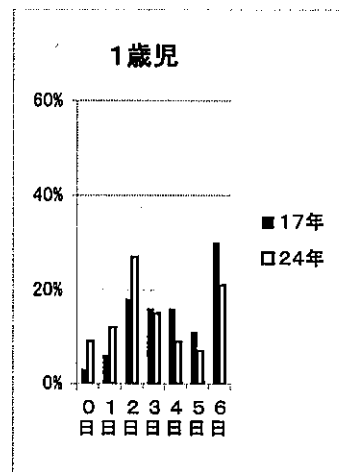
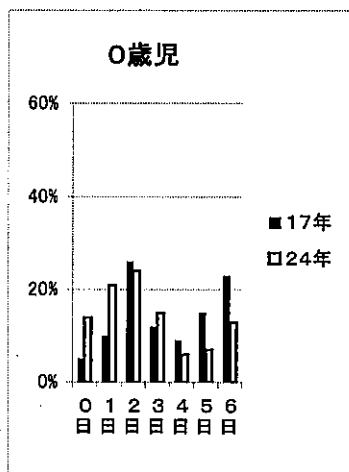
※ 0歳から2歳でテラス・ベランダが減っている。外遊びはテラス・ベランダより自然に触れやすい散歩の方が増えている。

2、外遊びは、週に大体どれくらいしていますか？

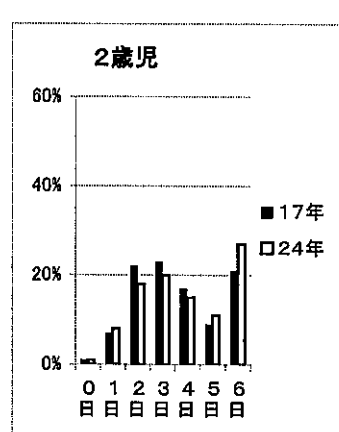
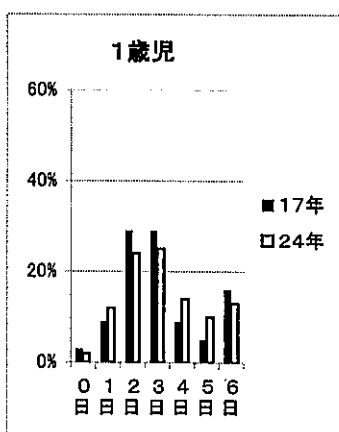
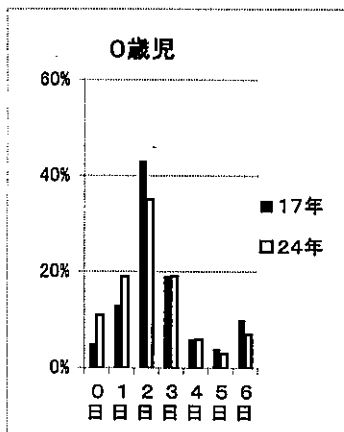
春・秋



夏



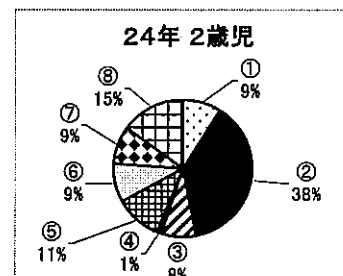
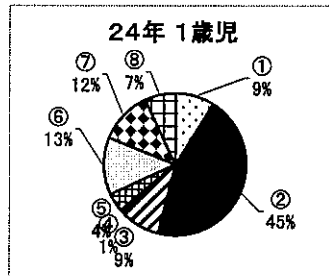
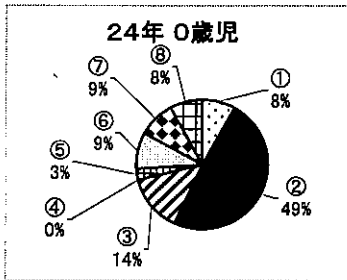
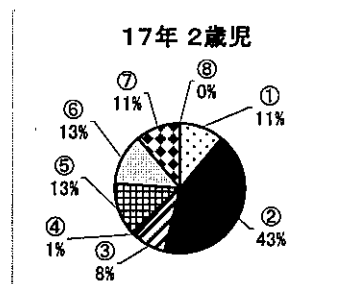
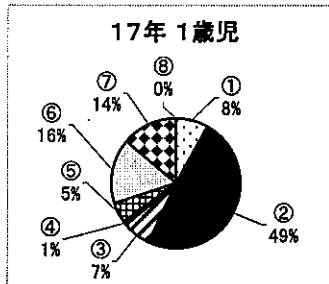
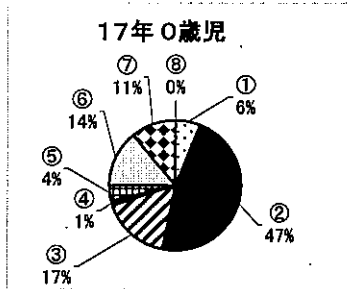
冬



※ 外遊びの回数は、17年と比較すると24年の方が夏の外遊びの回数が減少しているのは、近年の異常な暑さや大気汚染などの影響が大きいと考えられる。

3、どんなきっかけで外に出て遊んでいますか？

- ①毎日外に出る時間がきまっているから ②天気がいい時 ③時間に余裕がある時
 ④時間が余った時 ⑤子どもが出たいと言った時 ⑥子どもが落ち着かない時
 ⑦運動不足と感じる時 ⑧その他



その他

- ・四季の自然にふれる
- ・自然にふれたり、地域の様子などを見せたい
- ・自由に探索活動をさせたい

その他

- ・保育計画にあるから
- ・自然に触れたい時
- ・戸外で遊ぶ機会を設けたいから

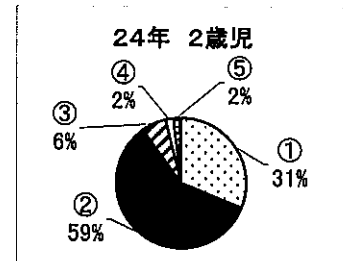
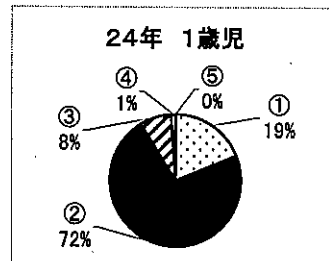
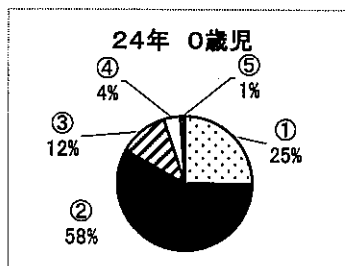
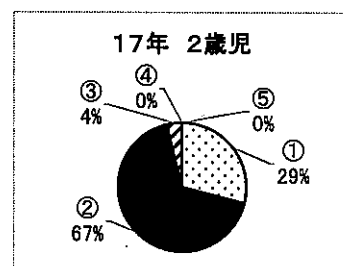
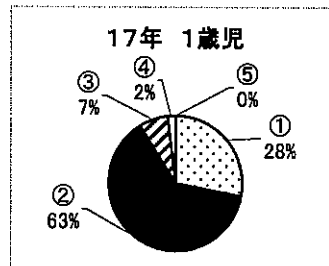
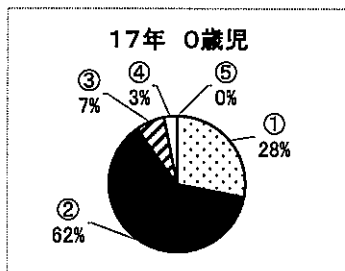
その他

- ・保育計画に沿って
- ・戸外遊びが大事だと思うから

※ 外に出るきっかけとしては、前回同様天気の良い時が多かった。これは戸外で遊ぶ楽しさを十分味わうことができるように、指導案に積極的に組み入れていると考えられる。

4、最近の子どもは、足が弱くなった転びやすいと、言われていますが、そう感じることはありませんか？

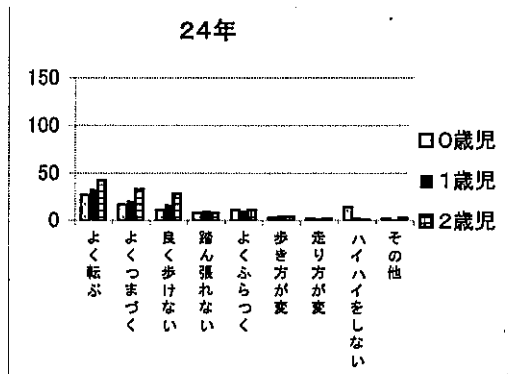
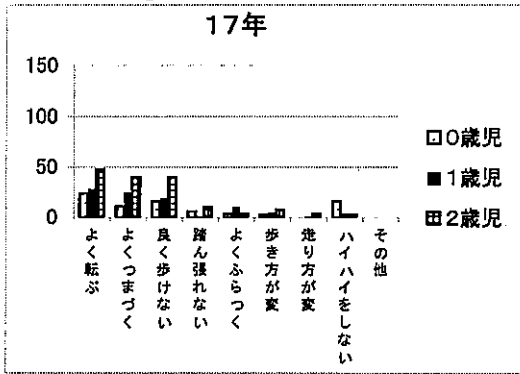
- ①大変そう思う ②少し思う ③思わない ④わからない ⑤その他



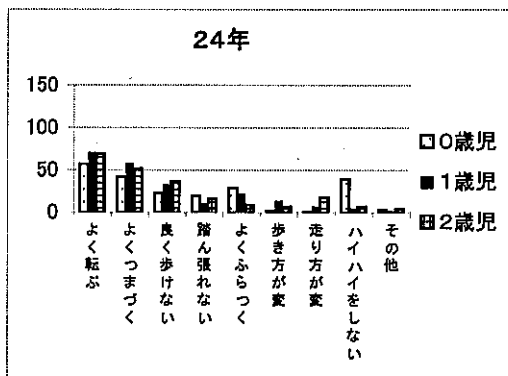
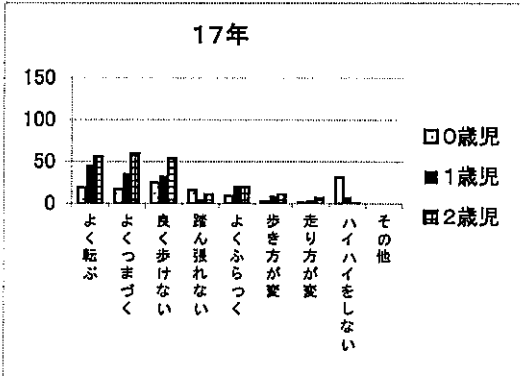
※ 子どもの足が弱くなった転びやすいと、感じる保育士は17年24年共に多い。車社会が依然として子どもの育ちに影響しているのではないかと考えられる。

(1)どんな場面で足腰の弱さを感じますか？

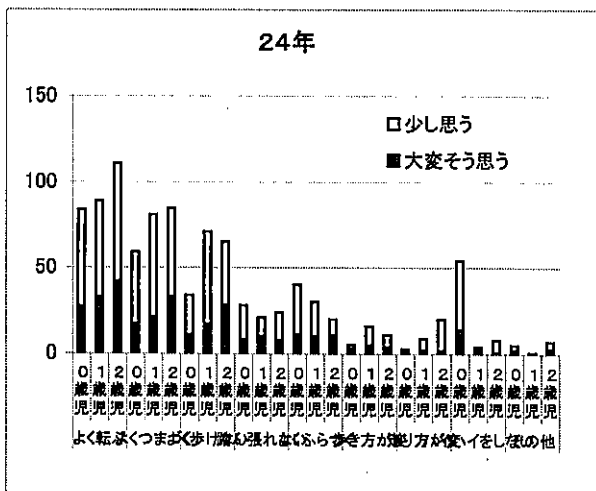
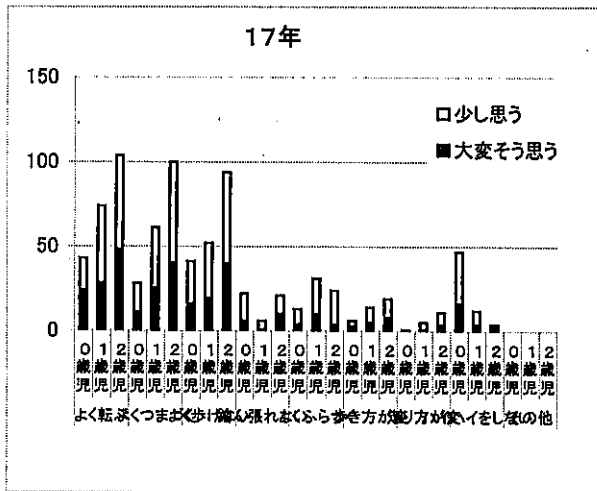
①大変そう思う



②少し思う



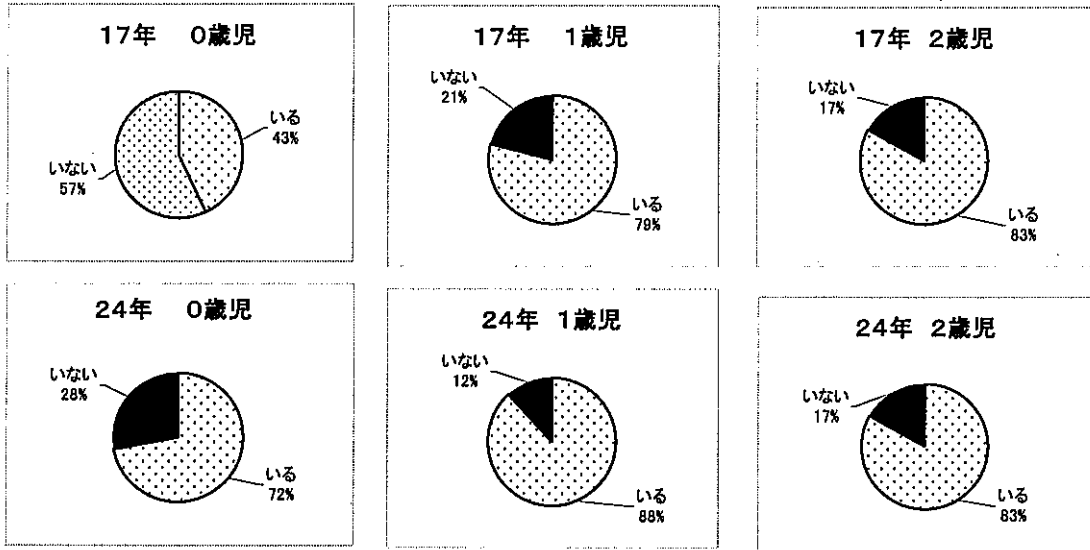
③大変そう思う・少し思う



5、それはどんなことが原因だと思いますか？

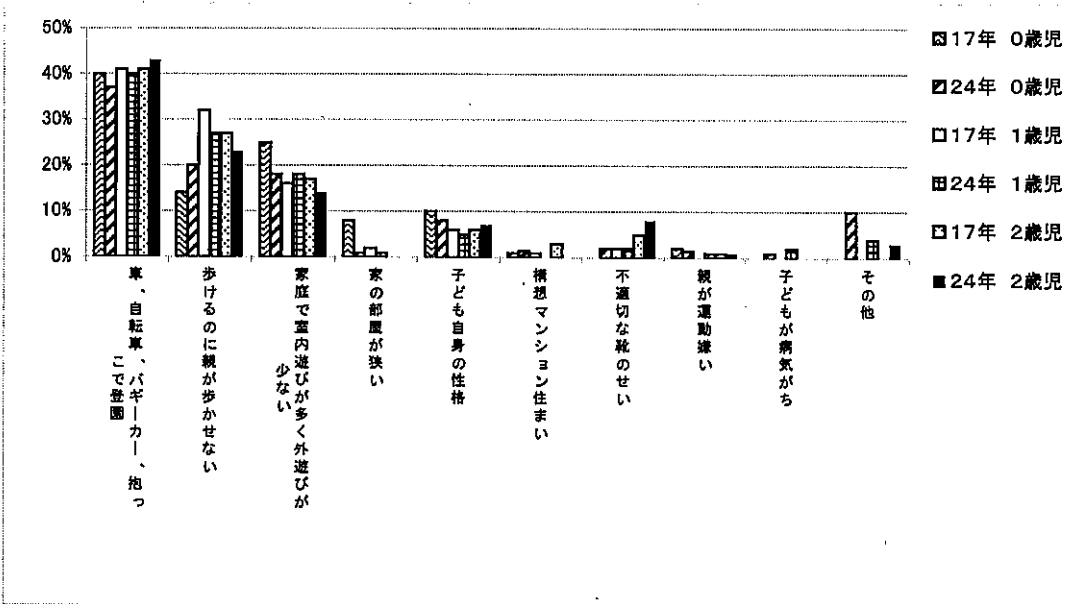
保護者の育児姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で体を使って親子で一緒に遊ぶ機会が少ない ・時間に追われ余裕がない ・危ないからといって経験をさせない ・歩くことができるのにすぐ抱っこする ・靴選びについての意識が低い ・這うことを大事に思っていない
物的環境	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の中で動くスペースが十分でない(狭い) ・近代的住宅事情(バリアフリーやエレベーター)により、体を使う経験が減った
車社会	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に追われ車での移動が多い ・車を利用することが多く、近くても歩く機会が少ない
食生活	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活に偏りがある

6、あなたのクラスの中に足が弱いと感じる子どもがいますか？



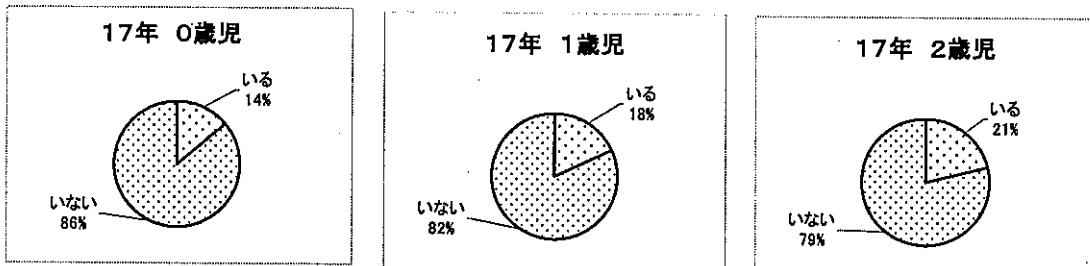
※ 0歳・1歳では足が弱いと感じる子どもの割合は増えており、特に、0歳で顕著である。近年の育休普及により、育休明けの1歳前後で入所(園)する子どもが増えているが、入所(園)までの家庭の育ちと関連があるのだろうか。

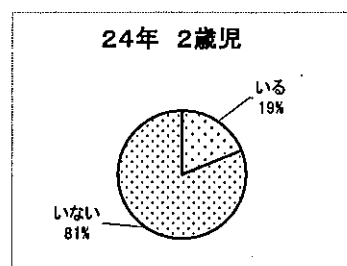
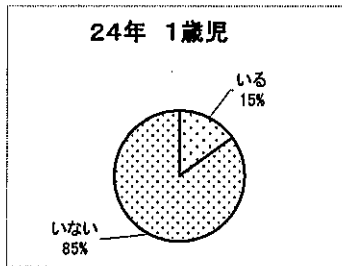
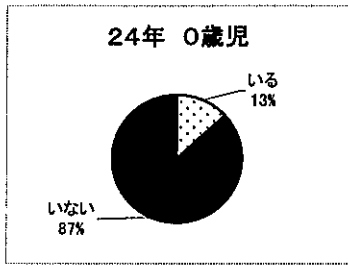
(1)その原因は何だと思いますか？(3つまで○可)



※ 17年も24年もあまり変化が見られなく、車・自転車・バギーカー・抱っこで登園の割合が増えていることが原因だと考えられる。

7、現在、保育所(園)での外遊びを制限する保護者がいますか？

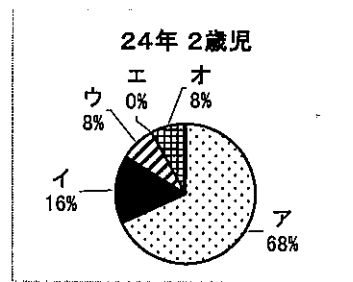
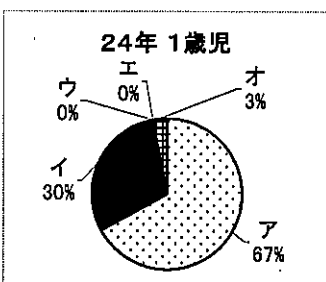
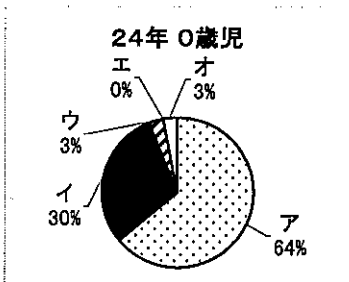
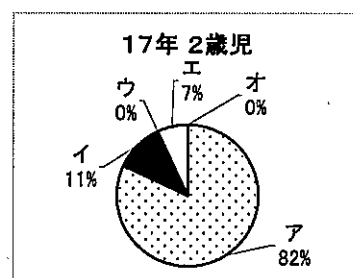
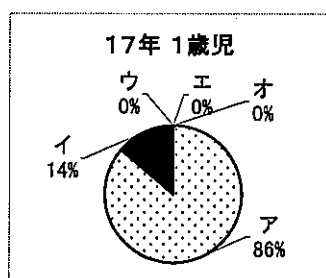
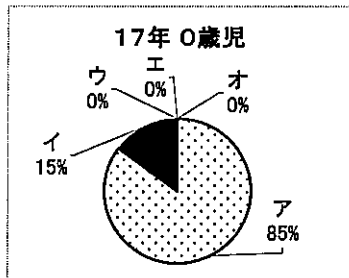




※ 17年も24年も外遊びを制限する保護者の割合は一定しているが、どちらの年も年齢が上がるにつれ若干増えている。

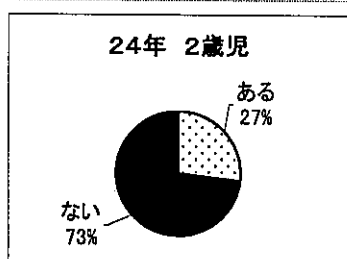
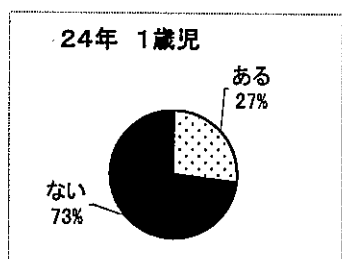
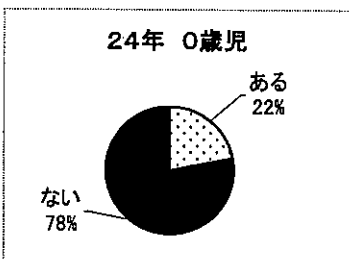
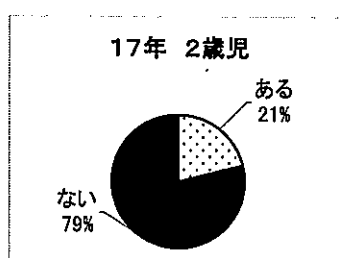
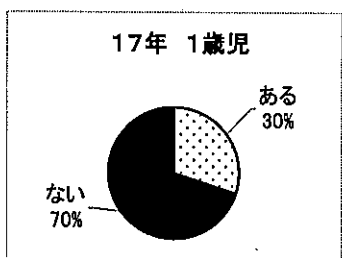
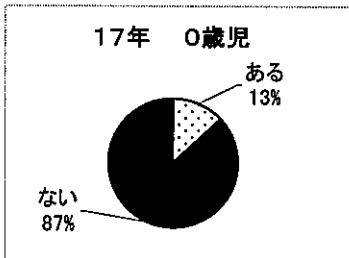
(1) どんな理由からですか？

ア、体調の悪さ イ、病気予防 ウ、紫外線予防 エ、ケガを防ぐために オ、その他



※ 17年に比べ体調が悪いことより病気予防のために制限する、という理由が全年齢で増えており、特に0歳・1歳で倍増している。

8. あなたは園児のケガについて保護者からクレームをうけたことがありますか？

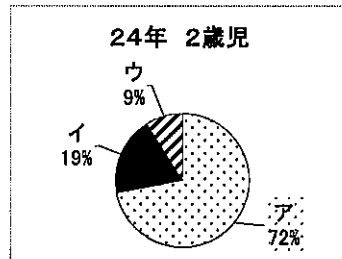
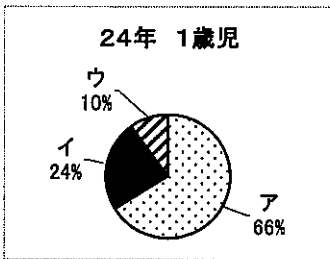
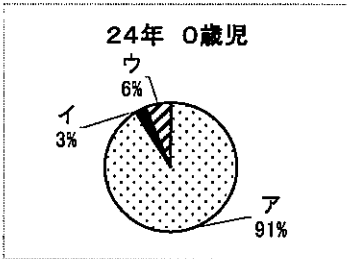
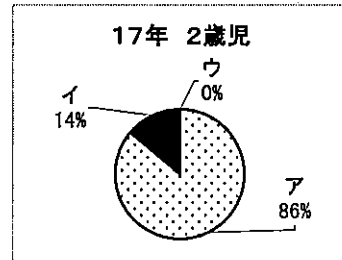
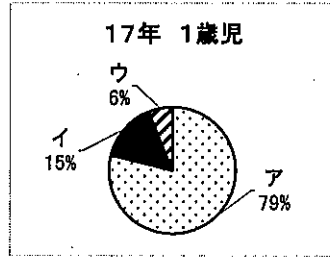
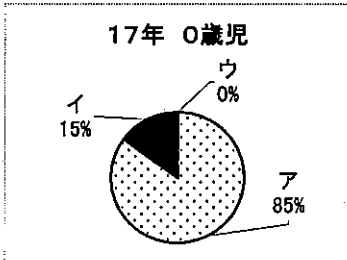


(1)どんなクレームでしたか？簡単にお書き下さい。

項目	内容
けがの部位・内容	・顔の傷(打撲、擦り傷、かみつき、ひっかき)、歯のけが
保育士・保育所(園)への意見	・けがが続いた時 ・ささいなけがでも、医療機関に受診して欲しかった ・相手を知らせてほしい ・伝達や連絡・説明が不十分

(2)そのことで子どもを遊ばせるときにけがを意識するようになりましたか？

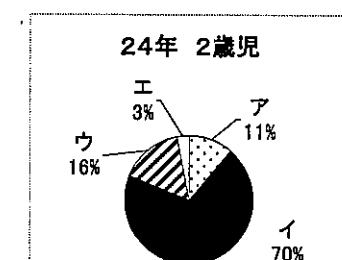
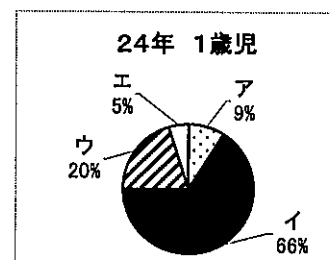
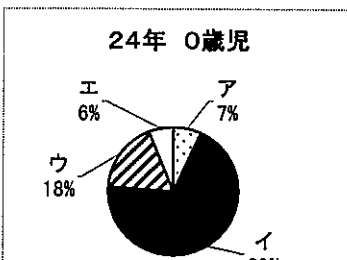
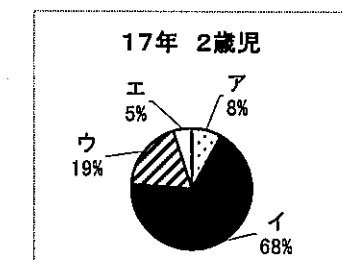
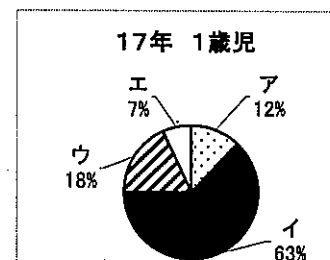
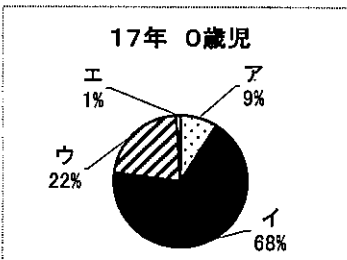
ア、かなり意識するようになった イ、少し意識するようになった ウ、変わらない



※ 17年と24年を比較すると、クレームにより「けがを意識する」は0歳児を除き減少している。1歳児のクレームが半減しているのは、北九州市の保育士配置基準が子ども6人に1人から5人に1人に引き上げられたことと関連しているのではないだろうか。

9、けがをさせないために、子どもをもっと遊ばせたいのに制限をしてしまう事がありますか？

ア、よくある イ、少しある ウ、あまりない エ、全くない



※ 17年より24年の方が、制限してしまうことが「少しある」が若干だが増えている。保育士自身の中にけがへの意識が潜在していると考えられる。

10、子どもの足腰の発達について、日頃のあなたが感じていることをお書き下さい。

項 目	内 容
子どもの現状	<ul style="list-style-type: none"> ・何もないところや小さな段差でも転びやすい ・転んだときに手がでない子どもが多い ・姿勢の安全・保持が難しい (バランスが悪い、ふらつく、すぐに寝ころぶ、等) ・長くあるけない
保育士の思い	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面に配慮し、園内・園外にかかわらず、体全体を使う遊びを取り入れ足腰の発達を促したい ・家庭と連携を摂りながら、発達を促していきたい ・子ども自身が危険を認知したり、回避したりする力を身につけるような体験をさせたい
保護者への思い	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を求める思いを受け止めながら、危険を回避する方法や援助の方法など一緒に学ぶ機会を設ける ・親子で体を動かす楽しさや発達への重要性をしっかりと伝える機会を作っていきたい

考察

0歳から2歳の全年齢で足腰が弱いと感じている保育士が、17年・24年と依然として高い。特に、0歳児で倍増している。外遊びの回数や散歩が増えていることから、保育士が早い時期から、子どもの足腰の弱さに気が付いて働きかけをしていることがわかる。足腰が弱い原因としては車社会や近年の住環境の変化の影響が大きいと考えられる。

そこで保育士は、指導案等で運動遊びを取り入れ、天気の良い日は戸外での活動時間を増やしていることが伺える。

保護者からの「けが」に対するクレームは、やや減少している。保育士は、保護者の不安材料である「けが」や紫外線予防・病気予防を配慮しながらも、子ども自身の発達を保障していくことが大切だと考えている。

また、経験を積んだ保育士のなかでは以前の子どもに比べ、現在の子どもの体力不足や足腰の弱さを実感する声を良く聞くが、そのこととも関連があるのではないだろうか。子どもの体力の減少、足腰の弱さ、子どもの運動機能の低下については調査を深め、有効な対策をとっていく必要があると考えられる。

今後、家庭状況の調査を行うなど家庭との連携を深めながら、子どもの発達保障をしていく必要があると考えられる。